

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

第44回 東北地区大学図書館協議会総会

第44回東北地区大学図書館協議会総会は、平成元年9月21～22日の2日間、山形厚生年金休暇センターを会場に、国・公・私立大学の加盟館から81名が参加して行われた。本総会では、東北学院大学図書館工学部分館、同大学泉分館、石巻専修大学図書館の3館からの加盟申請が承認された加盟館数は52館となった。40年にわたる本協議会の活動において、一挙に3館の加盟を見たことは特筆されなければならない。

永年勤続表彰は、前東北学院大学中央図書館事務長桜井博氏、前弘前大学附属図書館専門員古山トミエ氏、同参考係長森下志郎氏、同医学部分館閲覧係長古川佳氏の4氏に対し、長年にわたる図書館活動ならびに本協議会への御貢献を賛え表彰が行われた。

総会における主な協議題は、ファクシミリの図書館間相互協力への活用と、新聞の分担保存の二件であった。それは、ファクシミリを複写物の送信を除く複写申込、参考調査質問とその回答、文献の所蔵照会とその回答等に活用しようというものであり、『私立大学図書館相互協力便覧1987』

『図書館文献複写業務一覧国公立大学篇1987』等の改訂の間隙を埋める『東北地区大学図書館相互協力ファクシミリ便覧』（仮称）を作成して利用に供することとなった。

弘前大学から提案された『新聞等の分担保存』は、『東北地区大学図書館所蔵新聞目録第二版』に見られる各館のユニークタイトルの大部分を占める地方紙が永年保存扱いになっていないものが多いことに着目し、公共図書館との連携も考慮し

た分担保存の必要を提唱したもので、これが『新聞目録』発行の目的の一つであることから協議会誌に具体的に問題提起をすることとなった。

ここ数年間の懸案である協議会活動の活性化については、実務者研修会への参加、会誌への積極的寄稿、各大学或は部会活動への全加盟館への案内の他、日常業務上でも相互に連絡を密にし、更に協力関係を築いてゆくことが確認された。

その一環として、現行の『学術奨励規定』による表彰の基準が高いレベルに設定されているため長年推薦論文がなく有名無実になっているので、高レベルの論文は『協議会賞』とし、その他に若手育成の主旨で新たに『奨励賞』を設け、自館推薦に限定せず、他館職員の論文掘り起しも相互に出来るよう、次期総会に向けて改訂案の作成に着手したいとの幹事会の提案が了承された。

会期中に行われた国立大学部会においては、学術情報センター目録システム地域講習会の継続に関する諸問題、現物相互貸借問題、文献複写に関する著作権問題の動向等について種々情報交換が行われた。

なお、任期満了により東北、弘前、福島医大、東北学院、盛岡大が幹事館に、論文審査委員館は東北、弘前、会津短大、盛岡短大、盛岡大、山形女子短大が選出され、会計監査館は東北福祉大、宮城農業短大、常任幹事館は東北大学がそれぞれ留任することとなった。また、第45回総会は青森地区が担当し、弘前大学において開催されることとなった。

医学分館利用ガイダンスについて

これまでは、春季に社会医学系実習の一環として学部二年次の学生を対象に行ってきた「医学文献検索法のガイダンス」は既に実施したところで

ある。（木這子、1989、No.1にて報告済）。

今年度から、学部二年次のカリキュラム変更に伴い、平教授（薬理学第二）、伊藤教授（解剖学

第三)からの要請を受けて、「医学分館利用ガイドンス」を10月9日(月)医学部基礎棟講堂で実施した。

前回は医学文献の検索法を主題に、Index Medicusの利用法を中心とした内容であったが、今回からは、館内の資料構成、配置を中心とした図書館の利用法全般について、広く説明を行うこととなった。

出席者は約80名で、主な実施要項は次のとおりである。

配布資料に沿い利用者登録、開館時間、貸出手

続、文献複写、本館・他分館の利用、情報検索とT-LINES蔵書検索システム、館内の資料の種類と配置、情報検索用端末の設置場所、指定図書制度の意味とその資料の配置場所等について説明を行った。

資料として医学分館の「図書館利用案内(1998)」, 医学分館竣工パンフレット中の各階平面図、「指定図書目録(1989)」を配布した。

なお、来年度以降も、10月第一月曜日、9時から、学部二年次の全学生を対象としたガイドンスを実施する予定である。(医学分館)

第16回 医学図書館員セミナーについて

日本医学図書館協会では、文部省の後援を得て、館員の育成ならびに資質の向上のため「医学図書館員セミナー」と「医学図書館員研究集会」を開催しております。セミナーは、参加者の自主的な運営によって発表する場として設けられており、また参加者から各サブテーマごとに司会者を選んで自主的なセミナーとして進行していきます。

参加資格は①図書館長(又は主任司書)の推せんした者、②医学図書館の経験年数は問わない、③与えられたテーマについて、予め発表要旨を提出したものとなっております。参加者には、セミナー終了後に論文(400字詰原稿用紙20枚程度)を提出することが義務づけられ論文集として刊行されます。

平成元年度第16回医学図書館員セミナーは、東北地区医学図書館協議会が担当し、岩手医科大学附属図書館を当番館として平成元年8月1日(火)～2日(水)の2日間にわたり開催された。

開催に当たり、地区加盟館の主任司書である、佐藤(弘前大医、平成元年4月阿部に交替)、伊藤(秋田大医)、中村(岩手医科大)、小笠原(山形

大医)、本田(福島県立医大)、伊藤(奥羽大)、阿部(東北大医)を実行委員として委員会を組織し、委員長には岩手医科大学附属図書館の中村事務室長を選出した。実行委員会は、数回にわたって開かれセミナーの実施要領・スケジュール・業務分担及びメインテーマ・サブテーマ等を決め実施の運びとなった。

メインテーマ：医学情報活動—21世紀に向けて—

サブテーマ：1. ニューメディアの応用と利用者サービス

2. 相互協力と文献複写

3. 医学図書館と病院図書室ネットワーク

4. 医学図書館における情報検索

参加者は北は北海道、南は九州から21名の参加があり、協会加盟館外では国立仙台病院(図書委員：医師)からの参加があった。これは協会が進めている地域病院図書室の育成とネットワークの形成に基づくものである。特に私立大学からの参加が多く、発表テーマの多くは日常業務に密着して研究をし、それを業務に反影させていることで

ある。発表のあと活発な質疑応答と助言者からの講評・総括があり2日間にわたるセミナーを盛会裡に終了した。

最後になりますが、セミナー実行委員会と終了

までの間、岩手医科大学や図書館員の皆様から寄せられたご援助、ご好意に対して、実行委員の1人としてこの場をかりて厚くお礼を申し上げます。
(医学分館)

平成元年度大学図書館職員長期研修に参加して

医学分館 阿 部 佳 市

平成元年7月24日から8月11日まで、つくば市にある図書館情報大学において標記研修会が行われた。

参加者は北海道から沖縄まで、全国の国公立大学から41名の参加で言葉もさまざまあり日本もけっこう広いなあと感じた研修会でした。

最近の世の中が情報氾濫の中で情報のもつ重要性が強調されている今日の図書館の在り方を考える良い機会との期待と、過去の研修会の例にもれず人とのつながりだけに終わるのかという不安の中、つくば市に向かった。

研修会は講義形式と共同討議、見学、実習からなっている。

講義は図書館学、情報学、図書館に関連する幾つかの講義があった。私の期待していた講義内容との差にがくぜんとしたものもあったが、非常に良かったものもあり、期待度からみてそのよしあしがはっきり別れた。良かったものは概して時間が少なく感じた。

特に、図書館が情報学の世界と共同作業でこれからの図書館サービスを考えて行かなければならないという観点が強調されていたことは印象を強くした。

また、この研修会も学術情報センターシステムの講義、実習に3日間の時間を費やしていることは、この種の研修会の特徴ではあるがまだ、公、私立大学の参加が少ない時期でもあるのでさらに重要視していることの現れであると考えます。

実習ではマニュアル検索と学術情報センターの

NACSIS-IR を使用して行われた。実習にあたっての準備が良かったので身についた研修が出来たもののひとつである。

見学は筑波大学附属図書館、高エネルギー物理学研究所、日本科学技術情報センター筑波支部、国立国会図書館、国文学研究資料館、東京都立中央図書館、東京大学附属図書館を見た。図書館のシステムと機能そして、最先端技術と巾のひろい見学をさせてもらった。見学の目的が何にあったかは知らないが、私なりに考えるには情報の流通がどうなっているのかという視点があったのではないと思う。

共同討議は班別討議と全体討議からなり2日間にわたって行われた。初日は班別に分かれて行われた。班別討議でのテーマは①学術情報システムと大学図書館の業務システム化について、②大学図書館における情報提供サービスについてであった。班別討議では予め各参加者が提出していた発表要旨にもとづいて発表し、討議にあたっては、4つの視点から行われた。第一の視点は各図書館の業務機械化の現状と将来計画について、第二は学術情報システムについて、第三は業務システム化の問題点とその対応策について、第四は大学図書館における情報提供サービスについて、第五はその他関連事項であった。全体討議では班別討議の報告に基づいて質問、意見交換が行われ、司会者が次のようにまとめた。①学術情報センターシステムの運用が安定しており、これからはシステムの連係、ネットワークのなかでの図書館の位置

付けが必要である。②IRMによって大学図書館の意義づけを行って行く必要はある。③参加された人たちの人間ネットワークを造る。④学術情報センターへの要望はまとめたうえでセンターへ提出する(④については後日、文部省学術情報課を通じて返答があった)。共同討議の最後に文部省学術情報課上田課長補佐から講評が行われた。

今回の長期研修を受講して感じたことは、情報化時代の図書館の役割から考えると、講義内容に

不満であった。これからの図書館を背負って立つ受講者であるから内容の濃い講義であって欲しいしまた、講義と共同討議を関連させた研修を中心にしていくなさではないかと思う。情報化時代にふさわしい研修であって欲しいと思う。

最後になったが、私たちが温かく受け入れお世話下さった図書館情報大学の皆さんに心から感謝致します。

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。

表1は昭和61年～63年度の本学の概況、表2は昭和63年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和 61 年度	昭和 62 年度	昭和 63 年度
蔵 書	和	1,359,123 冊	1,400,198 冊	1,439,052 冊
	洋	1,309,979	1,357,235	1,400,807
	計	2,669,102	2,757,433	2,839,859
所 蔵 雑 誌 数	和	22,972 種	23,146 種	23,228 種
	洋	29,047	29,526	29,853
	計	52,019	52,672	53,081
年 間 図 書 受 入 数	和	40,707 冊	41,153 冊	40,020 冊
	洋	38,276	54,765	42,401
	計	78,983	95,918	82,421
年 間 雑 誌 受 入 数	和	9,997 種	10,002 種	9,969 種
	洋	10,996	11,145	11,098
	計	20,993	21,147	21,067
象 奉 者 仕 数 対	学 生	14,510 人	15,010 人	15,331 人
	教 官	2,484	2,497	2,519
一 奉 人 仕 当 対 り 象	蔵 書 数(冊)	157	158	158
	年間図書受入数(冊)	5	5	5
	図書館資料費(千円)	45	57	45
図 書 館 職 員 数	総 数	145 人	145 人	146 人
	専 任	83	82	80
	臨 時	62	63	66
図 書 館 職 員 1 人 当 り 奉 仕 対 象 者 数 (人)		117	121	122
図 書 館 資 料 費 (千円)		770,925	1,004,754	807,961
大 学 総 経 費 (千円)		54,181,358	64,049,000	62,147,000

表 2

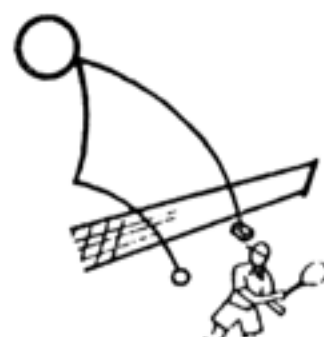
部 局		職員数 ()内は 定員外 職員: 内数	蔵 書 (平成元年 3.31現在)						昭 和 63 年 度 受 入 冊 数						昭 和 63 年 経 費				施 設 (平成元年 5.1 現在)					
			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				通 営 費 (職員給 与を除く) (千円)	座 席 数 (席)	延 面 積 (㎡)	閱 覧 室 ス ペ ース (㎡)	書 庫 ス ペ ース (㎡)	収 容 可 能 冊 数 (冊)
			和	洋	計	和	洋	計	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
本 館	本 館	39 (24)	561,574	297,673	859,247	11,210	11,937	23,147	15,163 (12,581)	12,104 (4,576)	27,267 (17,157)	2,032 (541)	962 (622)	2,994 (1,163)	102,008	39,649		141,657	160,329	925	13,550	2,849	4,552	1,074,806
	文 学	1 (1)	172,714	102,621	275,335	891	752	1,643	6,977 (5,723)	3,740 (2,878)	10,717 (8,601)	613 (293)	549 (534)	1,162 (827)	53,470	9,063		62,533	4,740	1	68	2	10	4,972
	教 育	1 (1)	42,335	27,630	69,965	746	320	1,066	1,004 (877)	839 (776)	1,833 (1,653)	434 (117)	234 (234)	668 (351)	13,262	5,340		18,602	3,535	20	268	0	90	11,950
	法 学	3	80,680	103,936	184,616	842	525	1,367	2,418 (1,403)	3,558 (2,871)	5,976 (4,274)	609 (163)	392 (353)	1,001 (516)	43,249	7,715		50,964	3,702	33	699	65	444	59,667
	経 済	3 (2)	143,578	137,063	280,641	1,346	885	2,231	3,363 (2,130)	3,069 (2,164)	6,332 (4,284)	745 (120)	455 (390)	1,300 (510)	40,291	14,033		54,324	8,379	18	259	45	125	27,472
	選 研	(2)	6,742	13,619	20,361	252	273	525	138 (49)	407 (160)	545 (309)	122 (44)	147 (106)	269 (150)	3,116	7,365		10,481	2,723	16	246	37	144	25,972
	科 研	1 (1)	4,019	13,446	17,465	283	136	419	44 (32)	356 (89)	400 (121)	259 (13)	109 (65)	368 (78)	1,655	7,844		9,499	2,068	20	574	58	375	36,556
	流 体 研	(2)	11,178	15,903	27,081	85	254	339	242 (173)	465 (136)	707 (309)	249 (36)	203 (119)	452 (155)	2,875	7,561	18	10,454	3,972	8	212	27	163	30,125
	通 研	2	6,221	15,588	21,809	133	261	394	256 (59)	739 (204)	995 (263)	295 (77)	246 (169)	541 (246)	2,722	12,248		14,970	2,156	10	335	59	247	31,777
	非 水 研	1 (1)	5,436	18,501	23,937	95	220	315	182 (45)	622 (128)	804 (173)	56 (32)	143 (136)	199 (168)	2,730	15,638		18,368	4,300	28	331	63	252	39,389
	応 情 研		500	1,314	1,814	3	28	31	0 (0)	17 (17)	17 (17)	3 (3)	28 (28)	31 (31)	211	757	88	1,056	7					
	サイクロン	(2)	822	2,703	3,525	6	34	40	45 (45)	198 (17)	243 (62)	6 (6)	34 (34)	40 (40)	584	4,427		5,011	6,188	3	98	12	35	5,778
	大 計	(1)	1,941	1,583	3,524	29	41	70	33 (33)	30 (30)	63 (63)	31 (31)	35 (34)	66 (65)	481	1,523		2,004	3,313		59		59	3,889
道 生 研	2	22,925	10,515	33,440	372	272	644	192 (43)	130 (46)	322 (89)	242 (34)	234 (70)	476 (104)	878	3,966	117	4,981	804	10	206	18	160	32,638	
計	58 (37)	1,060,725	762,095	1,822,820	16,238	15,938	32,231	29,957 (23,183)	26,264 (14,082)	56,221 (37,275)	5,666 (1,510)	3,771 (2,894)	9,467 (4,404)	267,532	137,209	223	404,964	206,216	1,076	16,905	3,225	6,656	1,384,991	
医 学 分 館	10 (13)	129,058	194,125	323,183	1,633	4,887	6,520	4,870 (2,433)	4,870 (1,070)	9,740 (3,503)	1,038 (433)	2,495 (2,279)	3,533 (2,712)	35,281	96,815		132,096	50,708	327	4,025	256	2,190	418,222	
北青葉山分	6 (5)	56,063	224,246	280,309	2,013	5,988	8,001	1,323 (1,011)	5,287 (1,340)	6,590 (2,351)	1,232 (787)	2,843 (1,928)	4,075 (2,715)	29,058	71,740		100,798	30,478	248	3,356	1,140	1,310	296,194	
工 学 分 館	4 (6)	125,350	133,278	258,628	1,680	1,659	3,339	2,635 (1,914)	3,333 (1,525)	6,028 (3,439)	1,050 (276)	1,064 (828)	2,114 (1,104)	37,727	63,601	3,631	104,959	33,738	210	2,712	1,194		91,388	
農 学 分 館	4 (2)	51,562	39,973	91,535	1,248	830	2,078	1,037 (678)	1,373 (257)	2,410 (935)	677 (107)	609 (272)	1,286 (379)	8,442	21,580	600	30,622	11,584	116	1,279	326	418	82,166	
計	24 (26)	362,033	591,622	953,655	6,634	13,364	19,998	9,865 (6,036)	14,903 (4,192)	24,768 (10,228)	3,987 (1,603)	7,011 (5,307)	11,008 (6,910)	110,508	253,736	4,231	368,475	126,508	901	11,372	2,916	3,918	887,970	
金 研	3 (3)	16,294	47,090	63,384	301	551	852	198 (85)	1,234 (421)	1,432 (506)	276 (61)	316 (179)	592 (240)	8,991	24,696	835	34,522	5,224	20	698	28	584	67,667	
総 計	80 (66)	1,439,052	1,400,807	2,839,859	23,228	29,853	53,081	40,030 (29,304)	42,401 (18,705)	82,421 (48,009)	9,969 (3,174)	11,098 (8,380)	21,067 (11,554)	387,031	415,641	5,289	807,961	337,948	1,997	22,970	6,169	11,158	2,340,628	

* 教養部、情報セ、学生部（保セ）は本館に含む。

昭和63年度文献複写実績

国立大学図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和63年度実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	支払区分	受 付		依 頼	
		件 数	金 額 (円)	件 数	金 額 (円)
附 属 図 書 館	校 費	954	1,288,375	377	378,536
	私 費	484	369,615	497	447,810
	計	1,438	1,657,990	874	826,346
医 学 分 館	校 費	3,197	1,376,294	382	149,485
	私 費	1,405	582,195	237	119,985
	計	4,602	1,958,489	619	269,470
北 青 葉 山 分 館	校 費	1,298	855,495	210	159,172
	私 費	182	129,890	116	52,470
	計	1,480	985,385	326	211,642
工 学 分 館	校 費	831	334,165	453	235,655
	私 費	42	19,485	9	4,110
	計	873	353,650	462	239,765
農 学 分 館	校 費	629	309,665	123	77,135
	私 費	139	58,160	184	89,660
	計	768	367,825	307	166,795
理 学 部 附 属 臨 海 実 験 所	校 費	7	17,155	0	0
	私 費	5	4,820	0	0
	計	12	21,975	0	0
合 計	校 費	6,916	4,181,149	1,545	999,983
	私 費	2,257	1,164,165	1,043	714,035
	計	9,173	5,345,314	2,588	1,714,018



記念資料室だより

10月25日（水）～31日（火）の一週間に亘り、本室と宮城県女子専門学校同窓会との共催によって、「宮城県女子専門学校資料展」が片平キャンパス内の本室展示室において開催されました。幸運にも連日晴天にめぐまれ、予想以上の盛会でした。観覧者は総計900名近くに達し、その六割以上は女専同窓会関係者以外の一般の方々でした。

この展示会の開催にあたり、本室は会場の提供ほか準備のための裏方としてそれなりのお手伝いをしてきましたが、具体的な展示内容の企画・構成・ディスプレイなどは殆ど全てが同窓会の方々のご奮闘によってなされたものでした。同窓会の方々は3年前に『宮城県女子専門学校史』を編纂されており、母校の歴史の理解をおおいに深められてきていたので、今回の展示会は同校の歴史的歩みや各時代の女学生生活の有様を豊かに伝えるとても内容のあるものになったと思います。それにしても、準備段階では予想以上の数多くの資料が集まり、しかもどれもきわめて大切に保存されてきたことが窺われるものばかりで、同窓会の方々の母校に対する強い愛惜の念や女専卒業生であることの誇りとを感じた次第です。また会場では同窓会の方々が一般の観覧者の方々一人ひとりに対して熱心に解説をされ、今はない女専のことを

語り伝えようと一所懸命でおられたことも印象的でした。観覧者の方もみな展示品や解説文の一つひとつを熱心に見学され、さまざまなイメージを思い描きつつ女専の歴史に学ばれている姿が数多くみうけられました。追想、憧憬の念や感激を率直な感想文にしたためて提出してくださる方々も多数ありました。

女専はほぼ“昭和”の前半20数年のあいだに存在した学校で、新たな学制が敷かれたのちは新制東北大学教養部に包摂されたのですが、ある意味では同時期の激動の歴史のなかで数奇な運命を辿った学校でもあり、東北大学包摂の経緯も決して女専側からみれば本意ではなかったことが数多くあったことと察せられます。それだけに今回女専資料展が当室において盛会裡に実現できたことは、大学にとっても女専同窓会の方々にとってもともにたいへん喜ばしいことであったと考えます。ある同窓生の方は、“今回の展示開催によって、漸く二高・工専と同列に東北大学の包摂校として仲間入りができた”との感想を述べられました。そのような記念すべき、また内容豊かな展示会となったことを心から喜ぶとともに、これを機会に多数の貴重な資料を当室にご寄贈いただいたことに対しここに感謝の意を表します。

平成元年度東北大学附属図書館職員総合研修会

標記研修会は、去る10月24日（火）午後1時半より本館大視聴覚室を会場に、国文学研究資料館助教授大藤修氏と、本学教養部教授片野達郎氏を講師に迎えて開催された。

「文書史料の保存と整理」と題して行われた大藤先生の御講演では、人間や組織のあらゆる活動の記録であるところの史料を保存することの意義と、その保存装置の一つである文書館の役割について話された。特に、公的機関の活動の記録を組織的に収集・整理・保管し、利用に供する公文書館制度が確立されつつある諸外国に比べ、重要な史料が公開されることもなく、その機関によって破棄されることも多い我が国の史料保存の現状について語られていた。

また、文書史料の整理と管理における基本的な考え方についても述べられ、日頃文書史料についての知識を得る機会の少ない者にとって大変有益な内容の講演であった。

「古書との出逢」と題された片野先生の御講演は、古書が如何に貴重なものであるのか、そして良い古書にめぐり逢えることの幸福さについて語られると共に、その保管や整理の重要性についても、具体例を示されながら強調された。

また、古書を取扱う上で基礎となるような事項について、現物の資料を手に取りながら説明され、初心者にとってもわかり易く、先生の古書に対する思いが感じられる内容の講演であった。

新館建設という周辺状況にあって、こうした資料の配置や保存の在り方が改めて問われている中、御二人の講演は資料に対する理解を深める上で大変有益な内容であり、ここに改めて感謝の意を表したいと思う次第である。

なお、この研修会には本学職員の外、近隣大学図書館の方々も含め約70名もの参加を得、盛会であった。

（総合研修委員会）

編 集 後 記

大学の最大行事である大学祭も終って、川内キャンパス周辺の山々も美しい紅葉から足早に冬将軍へのシーズンと変わりつつある。

図書館では、新館（増築）を本館西側に建築中でスタッフが来年4月下旬開館に向けて移転準備等で忙しい毎日が続いている。

4号は、新館の概要を掲載予定にしている。